



京大広報

(号外)

2001 4



目次

入学式

学部入学式における総長のことば 1072

大学院入学式における総長のことば 1075

大学の動き

平成13年度学部入学式 1076

平成13年度大学院入学式 1077

名誉教授称号授与式 1078

平成13年度入学者選抜学力試験の結果 1079

医療技術短期大学部の動き

平成13年度医療技術短期大学部入学式 1080

平成13年度医療技術短期大学部入学者
選抜試験の結果 1080

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

入学式

学部入学式における総長のことば

平成13年4月11日

総長 長尾 真

21世紀の最初の年に京都大学へ入学された2,883名の皆さん、おめでとうございます。ご参列の元総長、名誉教授の先生方をはじめ、ご列席の各学部長、教職員とともに、新入生の皆さんとご家族の方々に、心からお喜びを申し上げます。

皆さんの長年の努力が実って、ここに晴れて京都大学の学生になったことは、皆さんにとって人生の一つの記念すべき事柄でありましょう。我々京都大学の全ての者にとって、若々しい無限の可能性をもった皆さんを迎え入れることは、この上ない喜びであります。

* * *

京都大学が創立されたのは1897年であります。初代総長木下廣次氏は「自重自敬」という言葉を述べておられます。自分でよく考え、自分を大切にし、自分を尊敬できるよう努力すべきであるということでもあります。京都大学はまた、「自学自習」という事を言っております。すなわち京都大学で学問を学ぶというのは、受身的に講義を聞くのではなく、自発的に、問題意識をもって授業に参加し、積極的に自ら学ぶという気持ちを持つことが最も大切であるということでもあります。京都大学の学風である「学問の自由」という言葉の意味はそういったところからよく理解されるのであり、何でも勝手にやってよいということではありません。皆さんは自分に合った学問を見つけるための基礎をしっかりと学ばねばなりません。その基礎の上に自由な学問的思考方が展開してゆくのであります。

京都は千二百年の伝統を持つ日本文化の中心であり、日本人の精神性を支えている町であります。京都大学はその視点からも日本を代表する大学であり、皆さんは在学中にその良さを十分に味わい、自分の人格中に生かすことが望まれます。皆さんの年代はこれからの長い人生の基礎を作る時であり、京都の良き文化と伝統を吸収しながら、それぞれの専門分野の学問に対して挑戦してゆかねばならないのであります。

* * *

さて今日、大学は社会からいろいろと批判を受け

ています。京都大学の学生諸君には該当しないとは思いますが、最近の学生はまじめに勉強せず、単位をそろえて卒業さえすればよいという風潮があるといったことが言われています。その中でも特に大きく取り上げられているのは、最近の学生は物事を知らない、教養がない、教養教育が崩壊しているということであり、大学に対して非難が集中しているわけでもあります。

そういった社会の声を背景にして、中央教育審議会は「新しい時代における教養教育の在り方について」という課題をとりあげ、有識者から意見を聞きながら議論を深め、昨年12月に答申を出しました。そこでは教養を多面的なとらえ方で定義しております。基礎学力と知識、社会規範の意識と倫理性、感性と美意識、あるいは困難をのり越える体力と精神力、向上心と志、他者の立場に立って考える能力、自国のもつ文化・伝統をふまえ国際社会において相手に自分や自国の立場をよく理解させる能力、地球規模の視野で物事を考える力といったことが謳われております。

そしてこういった教養を培ってゆくための基本的方向として、主体的な学習の態度、国際交流、異文化理解などをあげ、これを子供の頃からずっと一生を通じて獲得し、深めてゆくことが必要であることを強調しています。このような中央教育審議会の答申をまつまでもなく、大学時代・大学院時代という、個人の人格がまさに確立してゆく時期に、どのような勉強をし、どのように教養を身につけ、人格を磨くかは、皆さんそれぞれの人生にとって最も重要な事でもあります。

教養といえは、物事をよく知っていることと、つい思われがちですが、いくら物事を知っていても、これを正しく、良く使うということが出来ねばならないわけで、知識を悪用すれば破滅にいたります。したがって知識と教養とは峻別しなければなりません。そして改めて教養とは何かを考えねばなりません。これはそれぞれが自分の問題として深く考えるべきことでもあります。解答は他から与えられるものではありません。

それにしても、以前は人間にとって最も大切と考えられていた教養と、それを備えた教養人という概念が、今日ややもすると疎んじられ、逆に専門家が

尊重されるようになって来たのは世界的な現象のように見えますが、それはどうしてなのでしょう。

* * *

現代は全てのことがあまりにも専門化、細分化され、それぞれの領域において専門家でなければ適切な判断ができないという状況にあるのは事実であります。科学技術は多くの革新的なことをなすとげ、新しい産業をおこし、企業に利益をもたらすとともに、社会を豊かにして来ました。こういった世界では、科学技術のそれぞれの分野の専門家が尊重され、活躍します。先端的な技術を扱う企業の多くに理工系学部出身の社長がおられるところからもそれが分かります。最近では金融機関や商社等においても、経済や経営の専門家であれば企業の運営について適切な判断をすることは難しいというような状況となって来ております。あらゆる可能性を考えてリスクを最小にする、あるいは期待値を最大にするといった形で数理的に市場の状況を把握し、適切な解を求めねばならないからであります。そういったところから、法律、経済、工学など、あらゆる分野で専門家が尊重され、専門家を中心にして全てのことが行われるようになって来たのだと考えられます。

しかし今日の状況をみると、それが妥当なものかどうか、疑問視されるようなことが多く出て来ております。たとえば作った物が全く思いもしなかった環境問題を引きおこしたとか、専門家が経営しているはずの企業において、目先の利益を最大化することにばかり汲々として、結局バブルがはじけてしまうような結果を作ってしまったりもしました。専門家はしばしば自分のせまい専門分野の範囲内だけで物を見てしまい、もっと広い世界がどのように変化してゆきつつあるかという観点を入れた最も妥当な判断が出来ないことがしばしばあるのであります。

そういったことを防ぐためにも、幅広い教養を持つことが必要であると言われております。しかし、もっと根本的には、社会正義や道徳に関する意識がしっかりとしていなければならないのであります。目先の経済的利益を最大化するという、今日の経済活動の主流的立場からの物事的设计においては、社会正義であるとか、できるだけ多くの人の幸福であるとか、道徳的に考えて疑問である、といった事が全く無視されてしまう結果、長期的にみると社会が

混乱し、ひいては個々の企業自体の存立も危うくなるといったことがおきかねないのであります。

* * *

今日、そういった社会の健全な価値観、道徳観はくずれさり、それに代って評価されているのは、経済力、金銭的価値であります。最近、教養が大切だと叫ばれているのも、もしそれが金もうけをするためであるとすれば、大きな間違いであります。今日あらゆる企業活動が国際社会に直結しており、そこで成功するためには、広い視野をもち、多くの事を知っていなければならないと言われていますが、それは当然のことでありましょう。しかしそれが人が教養をもつことの動機であるとすれば、これは教養の意味をはきちがえた、嘆かわしい事であると言わねばなりません。これからの教養人は自分が社会を良い方向に引っばってゆくのだという責任感をはっきりと持ち、無責任な批判的発言でなく建設的な発言をしてゆくべきでありましょう。すなわち、社会に対する責任感をはっきりと持った人でなければ教養人としての資格がないといってもよいと考えます。

この責任感とは、また我々のたどって来た歴史、文化、倫理観、あるいは真にあるべき社会といったことに照らして、自分の考え方、行動が誤っていないか、という不断の反省に裏打ちされていることが必要でありましょう。こういった行為は、何ものかに対する恐れ、あるいは敬いの念からくるものですが、これが今日ほとんど忘れ去られ、また無視され、人間の行うことは全て何でも肯定されているかのような現代の風潮に大きな問題がひそんでいるのではないのでしょうか。今日我々が直面している困難な社会状況、地球環境問題、その他多くのことは、人間のもつ傲慢さから来ていると考えることもできるのであります。我々は禁欲的な考え方や、我々の理性のおよばないことに対する畏れの気持ちを持つことが必要であり、これは教養における重要な部分を占めるものと考えます。

* * *

戦後今日までの我々が尊重し、追求して来た概念は、個人の尊重であり、個の確立であったのではなかったのでしょうか。今日教養が大切であり、我々一人ひとりが教養を積みねばならないと言われてい

ることは、これからの日本が戦前のような世界に戻らないようにするためにも、ぜひとも必要なことであります。そして二千年以上にわたる日本の文化・伝統の中から、真に価値あるもの、個性的であり、かつ世界に通用するものを見つけ出し、これを我々自身がよく認識するとともに発展させ、心の豊かな社会を作ってゆくためにも、敬虔な気持ちを持ち、教養を積む不断の努力をすることが必要なのであります。京都という地はその意味で最も良いところであり、皆さんは京都大学で学生生活を送れることに感謝するとともに、この環境を最もよく生かし、自分の人格を高めてゆくために役立てねばなりません。我々は、これまでの良い意味での日本人の精神性をもった人達が明らかにしてきたことを再認識し、我々が今日おかれている状況から、将来にむけて何を大切に考えて進んでゆくべきかを、それぞれがよく考えるべき時であるといつてよいでしょう。これは新入生の皆さんへの課題にしておきたいと思えます。皆さんが京都大学を卒業するときに、この宿題に対する答を提出してもらいたいものであります。

* * *

以上述べて来ましたように、我々は教養と人格についての明確な認識を持たねばならず、これなくしては日本がいくら経済大国になり、科学技術大国になっても、世界にその存在を評価される国にはなれないでしょう。これは企業においても、また個人においても同じであります。そしてこのような原則的なことを見失った国や企業は衰退し、世界史から消えてゆかざるをえないのであります。

さて、諸君が京都大学を卒業して社会に出てゆく21世紀はどのような時代になってゆくのでしょうか。諸君はそれぞれにこの問いを問わねばなりません。科学技術はますます発展してゆくでしょう。しかし地球環境問題も深刻になっているかもしれません。生命科学も進展し、さまざまな高度医療が行われるようになるでしょう。しかし一方では生命倫理が厳しく問われる時代となるでしょう。情報化社会の進展によって社会は大きく変転し、日本はますます国際化されてゆくでしょう。またそうでなければ日本の将来はありません。諸君には、そのような将来の日本を支え、国際社会で活躍してゆくことが

期待されているのです。

そのような21世紀国際社会で活躍してゆくためには、しっかりした専門的知識とともに、国際的な視野と論理的な思考力を持ち、深く物事を考えて適切な判断ができるようにならねばなりません。また、これを国際社会の中で発言し、納得してもらえただけの外国語による表現力・語学力も要求されます。21世紀はまた情報の時代であると言われていいます。コンピュータやその他各種の情報機器を自由に駆使して必要な情報を収集し、情報の洪水に流されずに適切な判断を下せるようになる必要があります。こういったことは全て皆さんの学生時代に十分に習得しておくべきことでありますが、豊かな教養に基づいていなければならないことは言うまでもありません。

* * *

京都大学は創立以来、今日までの百余年の間に、多くの先輩が輝かしい成果をあげ、京都大学ならではの学問の仕方、物の考え方を築いて来ました。京都大学が皆さんに与えることのできるものは実に様々で豊富であります。これを自分のものとするのは皆さんの意欲にかかっているのであります。皆さんはこの価値ある京都大学の独自の学風を学びとり、ますます国際化・情報化の進展してゆく21世紀社会において、十分に力を発揮して活躍できる人材として育てていってほしいと願っています。

皆さんの学生生活は、これからの激動の時代に耐え、それを克服し、社会を良い方向へ導いてゆくための基礎を築く時であります。いかなる困難な事態に遭遇しようとも、人間としての原理原則、学問の根本に立ちかえり、強靱な精神力によってこれを克服する勇気を持つことができねばなりません。何のために学問をし教養を積むかといえば、それはそういった強い人間力を発揮し、困難を乗り越えて、社会のためにつくす、そういう自分を作るためであると知っていただきたいのであります。人は志を高くもち、それに向って一步一步着実に進めば、必ずそれを達成することができるのであります。

皆さんのこれからの京都大学における勉学と生活が実り豊かなものであることを期待し、皆さんの入学へのお祝いの言葉といたします。

大学院入学式における総長のことば

平成13年4月11日

総長 長尾 真

大学院修士課程入学者2,115名，博士課程入学者916名，合計3,031名の皆さん，京都大学大学院への入学まことにおめでとうございます。ご列席の各研究科長とともに，心からお喜びいたします。

皆さんは大学の学部4年間に教養を積み，基本的な学問を修得しました。そして大学院において，さらに広く深い基礎的な学問，あるいは学問の進展した部分，先端的な部分を学ぶとともに，自分の研究テーマを見つけ，自ら主体的に研究を行うことになるでしょう。

しかしここで皆さんは，大学院とは何か，大学院の目的は何なのか，そこで皆さんは何をしようとしているのかを，改めて問うてみる必要があるでしょう。ところが実はこの問いに対する答は難しいのであります。そもそも大学を法律上規定している学校教育法においても，その第52条において，「大学は，学術の中心として，広く知識を授けるとともに，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」とのみ書き，またその第65条において，「大学院は，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめて，文化の進展に寄与することを目的とする。」としか書かれておりません。

そこでこれでは不十分であるとし，また今日の学術の進展と社会の諸活動の高度の専門化に対応することが必要であるとし，平成10年10月に大学審議会は「21世紀の大学像と今後の改革方策について」という答申において，大学院について次のような記述を行いました。

* * *

「大学院は，あらゆる学問分野にわたり基礎研究を中心とした学術研究の推進とともに，研究者の養成及び高度の専門的能力を有する人材の養成という役割を担うものであり，将来にわたって我が国の学術研究水準の向上や社会・経済・文化の発展を図る上で極めて重要な使命を負っている。21世紀初頭の社会状況の展望等を踏まえると，これからの社会が特に必要としているのは，細分化された個々の領域における研究とそれらを統合・再編成した総合的な



学問とのバランスのとれた発展であり，学術研究の著しい進展や社会・経済の変化に対応できる幅の広い視野と総合的な判断力を備えた人材の養成である。社会の高度化・複雑化が進む中で，主体的に変化に対応し，自ら将来の課題を探求し，その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して解決する能力を育成することは，研究者の養成あるいは高度専門職業人の養成や社会人の再教育など，いずれの方向性を目指すにせよ大学院においても等しく強く求められるところであり，教育研究の高度化・多様化を更に推進していかなければならない。」

* * *

「大学院は，それぞれの課程の目的・役割を明確化していくことが課題となっており，とりわけ，修士課程にあっては，研究者養成の一段階又は高度専門職業人の養成などその役割の方向性を明らかにし，それに即して，学部教育で培われた専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力に立ち，専門性を一層向上させていくことが重要である。また，博士課程にあっては，基礎的・先駆的な学術研究の推進，世界的な学術研究の拠点，優れた研究者の養成などの中核的機関としての基本的な役割が極めて重要である。」

* * *

「今後の大学院の在り方としては，その教育研究水準の質的向上とあいまって，全体として研究者養成に加え，高度専門職業人養成の役割をもより重視した，多様で活力のあるシステムを目指すことが重要である。」

「そのため，これまでの高度専門職業人の養成の充実と併せて，これを更に進め，特定の職業等に従事するのに必要な高度の専門的知識・能力の育成に特化した実践的な教育を行う大学院修士課程の設置を促進することとし，制度面での所要の整備を行い

教育研究水準の向上を図っていく必要がある。

高度専門職業人の養成に特化した大学院修士課程は、カリキュラム、教員の資格及び教員組織、修了要件などについて、大学院設置基準等の上でもこれまでの修士課程とは区別して扱い、経営管理、法律実務、ファイナンス、国際開発・協力、公共政策、公衆衛生などの分野においてその設置が期待される。」

* * *

大学審議会のこの答申に基づいて、京都大学にも従来の修士課程とは区別された大学院修士課程が医学研究科に社会健康医学専攻としてつくられました。

そこで、京都大学大学院に入学された皆さんの大学院での目的は何かがここで問われることとなります。皆さんそれぞれにこの問いを問うていただきたく思います。

* * *

京都大学は日本では1, 2を争う研究中心の大学であり、ノーベル賞学者を輩出して来ましたが、世界に名の知られた多くの研究者を擁する大学ですが、その活力の中心は先生方の研究とともに、いっしょに研究する大学院学生の皆さんの力にあるのであります。たとえば、昔の話になりますが、ノーベル物理学賞をもらった湯川秀樹先生や朝永振一郎先生などは、旧制大学の時代ですが、大学生の時に既に核物理学の世界の最先端の学術論文を読み、それを批判し、自分の考え方を形成してゆかれたのであります。このような研鑽をされたからこそ、湯川先生は27歳の若さで中間子の存在を预言する独創的な論文を書くことができたのであります。

皆さんもそれぞれの分野で、世界の最先端がどこにあって、そこでは何を問題にして議論がなされているか、その先に横たわっている課題は何かを、若

く鋭い感覚で嗅ぎとって、果敢に挑戦してゆかねばなりません。独創的なことは、多くの場合、若い20歳代に出て来るのであり、皆さんも学問の最先端がどうなっているかを早く知る努力をしなければなりません。

ただそういったことの前提には、自分はどういったことに興味があるか、大学院に入って何をしようとしているのかということをはっきりと自覚していることが必要であります。そういった自覚を持っている人は、どのような勉強をすればよいか、どのような本や学術雑誌を読み、どのような資料やデータと対決しなければならないかがすぐに分かるでしょう。そういった自覚をいまだ持っていない人は、これから人一倍専門書を学び、学術雑誌を読むことが必要であります。そうすることによって、自分の興味のあるテーマが浮かびあがって来て、何をすべきかが分ってくるでしょう。いずれにせよ、よいアイデアを出すためには、不断の勉強が必要であります。

研究者を指向せず、高度専門職業人になることを目指している人においても、大学院において新しい課題を見つけ、それに解決を与える努力をすることは必須のことです。未知の問題に出会ったとき、これをどのように解決してゆくかが、社会において高度専門職業人に期待されている能力であり、これは研究という訓練を通じて最もよく体得されるからであります。

いずれにしても、皆さんは自分で自分の課題を見つけ、これに挑戦してゆくことが求められています。皆さんの大学院生活が実りのあるものであることを期待し、皆さんの京都大学大学院入学へのお祝いの言葉といたします。

大学の動き

平成13年度学部入学式

4月11日(水)午前10時から、平成13年度学部入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午前10時35分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

学 部	募集人員	一 般 入学者	外国学校出身者 のための選考に よる入学者	小 計	外国人留学生			第3学年 編入学者	再入学者	小 計	合 計
					国費	私費	小計				
総合人間学部	130人	130人	人	130人	人	人	人	1人	人	1人	131人
文 学 部	220	224		224				5		5	229
教 育 学 部	60	63		63				8		8	71
法 学 部	360	357	6	363	2		2	25		25	390
経 済 学 部	240	241	4	245	3	9	12	9		9	266
理 学 部	301	301		301				1		1	302
医 学 部	100	103		103							103
薬 学 部	80	80		80		1	1				81
工 学 部	975	975		975	3	12	15	9		9	999
農 学 部	300	308		308		3	3				311
合 計	2,766	2,782	10	2,792	8	25	33	58		58	2,883

平成13年度大学院入学式

4月11日（水）午後3時から、平成13年度大学院入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

研究科	修 士 課 程			編入 学者	博 士 後 期 課 程			進学者	外国人留学生 国費	外国人留学生 私費	小計	合計		
	入学者	外国人留学生 国費	外国人留学生 私費		外国人留学生(編入)	再入 学者	小計							
文学研究科	101人	1人	4人	5人	3人	3人	人	11人	65人	2人	2人	69人	80人	
教育学研究科	39		1	40	1			1	23		1	24	25	
法学研究科	54	4	10	68	2	1	2	5	20		1	21	26	
経済学研究科	54	5	20	79	9	3		12	28		3	31	43	
理学研究科	241	4		245	20	7	1	28	112	2		114	142	
医学研究科	37			37	6		1	7	1			1	8	
薬学研究科	78			78	6			6	23		1	24	30	
工学研究科	593	10	19	622	20	4	9	33	61	1	3	65	101	
農学研究科	301	7	7	315	14	5	6	25	58	5	4	67	92	
人間・環境学 研究科	124	2	8	134	13	2	3	18	44	3	2	49	67	
エネルギー 科学研究科	117		2	119	1	2	2	5	14			14	19	
情報学研究科	177	3	7	187	12	4	1	17	31	2	3	36	53	
生命科学研究科	84	1		85	6		2	8	32	1		33	41	
合 計	2,000	37	78	2,115	115	30	29	5	179	512	16	20	548	727

(注) 経済学研究科の新講座及び農学研究科の新専攻に係る入学者を除く。

研究科	博士課程				合計	研究科	一貫制博士課程				合計
	入学者	外国人留学生 国費	外国人留学生 私費	転入学者			入学者	外国人留学生 国費	外国人留学生 私費	編入学者	
医学研究科	143人	4人	9人	人	156人	アジア・アフリカ 地域研究研究科	27人	4人	2人	人	33人

名誉教授称号授与式

4月6日(木)午前11時から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。

授与式は、部局長の出席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があり、午前11時55分終了した。

称号を授与された方は、次の42人である。



(氏名)	(推薦部局)
青木昌彦	(経済研究所)
寺島泰	(工学研究科)
廣田勇	(理学研究科)
鈴木茂嗣	(法学研究科)
加藤尚武	(文学研究科)
篠山重威	(医学研究科)
渡邊尚	(経済研究科)
佐藤幸治	(法学研究科)
富田憲二	(基礎物理学研究所)
家森幸男	(人間・環境学研究所)
岩田豊	(原子炉実験所)
矢部寛	(工学研究科)
宇津呂雄彦	(原子炉実験所)
狭間直樹	(人文科学研究科)
礪波護	(文学研究科)
小岸昭	(総合人間学部)
小菅皓二	(理学研究科)
宮崎昭	(農学研究科)
池田克夫	(情報学研究科)
升田利史郎	(工学研究科)
小野勝敏	(エネルギー科学研究科)

(氏名)	(推薦部局)
豊島喜則	(人間・環境学研究所)
今本博健	(防災研究所)
高橋三郎	(総合人間学部)
伊藤嘉彦	(工学研究科)
坪内良博	(アジア・アフリカ地域研究研究科)
池永満生	(放射線生物研究センター)
吉田博宣	(農学研究科)
上野民夫	(農学研究科)
岩村俣	(農学研究科)
新宮秀夫	(エネルギー科学研究科)
廣田昌義	(文学研究科)
佐々木隆造	(生命科学研究所)
岡正典	(再生医科学研究科)
相良直彦	(人間・環境学研究所)
加納隆至	(霊長類研究所)
佐藤文隆	(理学研究科)
竹内賢一	(工学研究科)
小林隆史	(化学研究所)
豊田昌倫	(文学研究科)
三好郁朗	(総合人間学部)
山本耕平	(文学研究科)

平成13年度入学者選抜学力試験の結果

平成13年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は2月25日（日）・26日（月）に、後期日程試験は3月13日（火）・14日（水）に実施した。

学部別の受験者数，合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1段階 選抜合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠席率	(I) 合格者数	(J) 辞退者数	(K) 追加合 格者数	(L) 入学者数
総合人間学部	130人									1人		130人
前期 文系	55	234	4.3	225	219	4.0	6	2.7	55			
前期 理系	55	207	3.8	199	198	3.6	1	0.5	56			
後期	20	372	18.6	320	198	9.9	122	38.1	20			
文 学 部	220											224
前期	190	567	3.0	566	563	3.0	3	0.5	193			
後期	30	379	12.6	301	150	5.0	151	50.2	31			
教 育 学 部	60											63
前期	40	160	4.0	157	155	3.9	2	1.3	42			
後期	20	155	7.8	142	94	4.7	48	33.8	21			
法 学 部	340									1		357
前期	320	883	2.8	883	876	2.7	7	0.8	322			
後期	20	438	21.9	345	109	5.5	236	68.4	36			
経 済 学 部	230									5		241
前期 一般	160	473	3.0	473	467	2.9	6	1.3	160			
前期 論文	50	325	6.5	254	245	4.9	9	3.5	50			
後期	20	579	29.0	579	343	17.2	236	40.8	36			
理 学 部	301									5	5	301
前期	271	953	3.5	910	896	3.3	14	1.5	271			
後期	30	1,016	33.9	972	647	21.6	325	33.4	30			
医 学 部	100											103
前期	90	431	4.8	411	399	4.4	12	2.9	93			
後期	10	229	22.9	150	76	7.6	74	49.3	10			
薬 学 部	80									1		80
前期	70	212	3.0	212	202	2.9	10	4.7	71			
後期	10	151	15.1	151	92	9.2	59	39.1	10			
工 学 部	975									5	3	975
前期	874	2,396	2.7	2,396	2,367	2.7	29	1.2	874			
後期	101	1,073	10.6	806	423	4.2	383	47.5	103			
農 学 部	300									2		308
前期	240	736	3.1	736	730	3.0	6	0.8	250			
後期	60	799	13.3	799	504	8.4	295	36.9	60			
小 計												
前期	2,415	7,577	3.1	7,422	7,317	3.0	105	1.4	2,437			
後期	321	5,191	16.2	4,565	2,636	8.2	1,929	42.3	357			
計	2,736	12,768	4.7	11,987	9,953	3.6	2,034	17.0	2,794	20	8	2,782

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1段階 選考合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠席率	(I) 合格者数	(J) 辞退者数	(K) 入学者数
法 学 部	20人以内	40人	2.0	21人	13人	0.7	8人	38.1%	6人		6人
経 済 学 部	10人以内	16	1.6	13	7	0.7	6	46.2	4		4

医療技術短期大学の動き

平成13年度医療技術短期大学部入学式

4月6日(金)午前10時から、平成13年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、長尾 真学長の式辞、来賓祝辞があり、午前10時20分終了した。



平成13年度医療技術短期大学部入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成13年度入学者選抜試験を3月2日(金)、3日(土)に実施し、その合格者を3月9日(金)に発表した。ただし、助産学特別専攻の入学者選抜試験は1月26日(金)に実施し、合格発表は2月4日(金)に行った。

受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

区 分	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
看 護 学 科	80 人	234 人	196 人	122 人	83 人
衛 生 技 術 学 科	40	309	280	69	47
理 学 療 法 学 科	20	231	204	25	20
作 業 療 法 学 科	20	169	146	30	20
小 計	160	943	826	246	170
助産学特別専攻	20	115	106	20	20
合 計	180	1,058	932	266	190